

和光市長旗・郵便局長杯争奪
和光市スポーツ少年団創立50周年記念大会 兼
第56回 和光市少年野球秋季大会

期 間 : 令和7年9月14日(日)～10月26日(日)

場 所 : 和光市運動場(野球場)、レクリエーション広場

主催 和光市スポーツ少年団野球連盟

後援 和光市
和光市教育委員会
和光市スポーツ少年団

共催 関東地方郵便局長協会

協賛 和光市スポーツ協会
Honda硬式野球部

和光市長旗・郵便局長杯争奪第56回和光市少年野球秋季大会は、高学年及び低学年ともに以下に記載する方法により実施することとする。

1 運営方法

リーグ戦方式で実施する。

2 表彰

優勝・準優勝・三位を表彰する。

3 大会要綱

1) 順位の決定

〔優勝・準優勝チーム〕

グループAとBの1位チームとの対戦で決定する。

〔三位チーム〕

グループAとBの2位チームとの対戦で決定する。

※ 2チームが同率の場合には、当該チームの対戦での勝者を上位とする。
3チーム以上が同率の場合は、全試合の失点の少ないチームを上位とする。
なお、同じ場合には、審判部立会いのもと抽選により順位を決定する。

2) 本大会は、別に定める大会規約・競技運営に関する連盟取り決め事項により試合運営を行う。

なお、大会要綱以外のルールにおいては、2025年度全日本軟式野球連盟公認規則及び2025年度版埼玉県スポーツ少年団軟式野球連盟運営細領を適用する。

3) 試合当日の中止決定

雨天による中止決定は、当日の午前7時迄に決定する。

但し、開会式は所定の屋内施設にて挙げる。

なお、問い合わせは事務局まで。宮嶋 090-1668-2740、伊藤 090-4710-1853

4 大会規約

5 協議運営に関する連盟取り決め事項

6 審判員の申し合わせ事項

大会規約

1 正式試合について

高学年大会の試合時間は6イニング又は90分とする。低学年大会は5回又は90分とする。
 試合開始後90分を過ぎたら新しいイニングに入らない。
 上記イニング終了時点が時間内であっても同点の場合は特別延長戦を1イニングス行う。
 (特別延長戦:タイブレークは軟連必携に準じて行う。ノーアウト1・2塁継続打順)
 尚、勝敗が着かないときは抽選とする。
 (抽選方法は○・×各9枚を準備し最終メンバーにより先攻、後攻順番に行う。)
 低学年大会は、打者一巡で攻守交替とする。申告敬遠は打者一人としてカウントしない。

2 放棄試合について

以下の場合に放棄試合とし、当該チームを敗戦扱いとする。
 一方のチームが9人の登録選手を位置させることが出来なくなるか、又はこれを拒否した場合。
 審判員が警告を発したにもかかわらず、故意にまたは執拗に反則行為を繰り返した場合。

3 コールドゲームについて

得点差によるコールドゲーム
 高学年大会 3回以降12点差、5回以降7点差以上。
 低学年大会 3回以降10点差、4回以降7点差以上。
 日没、天候等によるコールドゲーム
 高学年大会 5回終了又は試合時間が60分経過した場合。
 低学年大会 3回終了又は試合時間が60分経過した場合。
 上記内容のいずれかを満たした場合、試合成立とする。それ以外は後日特別継続試合とする。

4 ベンチ及び試合グラウンド内に入れる人員

代表者・監督【30】を含む指導者【29～23】及びスコアラー・選手20名【0～20】以内とする。
 監督を含む指導者及びスコアラーは、最大8名まで登録可能であるが、ベンチ入りは代表者以外監督を含む指導者及びスコアラーの最大4名とする。スコアラーは指導者登録された者でも可とする。また、救護員2名をベンチ入りさせる。
 代表者・スコアラーとしてベンチ入りする者は私服可能であるが、チーム帽子着用とする。
 チームキャプテンの背番号は10番とする。
 監督・指導者(ヘルメット着用)は練習の補助のみとする。
 指導者1人のブルペン捕手を試合時間前までの間許可する。(マスク着用)

5 投球制限について

高学年:1日70球以内、低学年:1日60球以内とする。ただし投球制限を超えても当該打者が出塁またはアウトになるまでは投球可とする。
 ダブル登録により高学年の試合で4年生が投球する場合も60球以内とする。
 明かなルール違反があった時はペナルティも考慮する。
 申告敬遠を認める。(球数として数えない)
 低学年大会においては、1回の攻撃で9人の打者が打席を完了した時点で攻守交代する。
 ただし申告敬遠された打者は9人に含まれない。

6 試合会場の集合時間について

原則として、試合開始予定時間30分前までに試合の出来る状態で集合する。
 試合開始予定時間は、大会運営上前後する事もある。
 試合開始前に本部席にメンバー表5部提出する。

7 ベンチは組み合わせ表の若番が1塁側・老番が3塁側とする。但し公式球場では、大会本部の指示に従う。

8 試合球

「健康ボールJ球」とする。

補足

- 1 本球場の場合などあらかじめベースが埋め込まれている場合はそのベースを適用する。
- 2 ベースは固定ベースとする。
- 3 ユニフォームのズボン、ストッキングが3分の2以上見えるようにきちんとはかせる。(ユニフォームによっては、ズボンを上げられない物がある為選手らしい姿にする。)
- 4 捕手は投手の投球練習及びシートノックも含め防具を着用すること、(マスク・プロテクター・レガース・ヘルメット・高学年のみフェールカップ)捕手用具は原則として2セット用意する。

競技運営に関する連盟取り決め事項

- 1 その日の第1試合に出場するチームは、球場責任者の許可を得た場合、外野に限り練習に使用してもよい。(試合会場で練習する場合は登録された指導者がユニフォームを着用のこと)
- 2 相手チームのシートノック中はグラウンドに出るはいけない。
- 3 シートノックは原則として5分間とする。ノッカーも選手と同一ユニフォーム着用のこと。
- 4 大会運営上、シートノックを行わずに試合をすることもある。この場合は攻守決定の際に知らせる。(危険防止のため2箇所でのシートノックは禁止する)
- 5 ホームプレート付近の整備はシートノック終了後に行う。
- 6 次の試合のバッテリーが球場内のブルペンを使用することは、自動的に許されるものではない。
- 7 球場内での素振り・バッティング(トスバッティングに限る)・バンド練習は外野に限り可とする。
- 8 雨天の場合でも試合を行うこともある。また、午前中は見合わせて午後から行うこともあるので大会本部と連絡は密に行うこと。
- 9 監督の指示は学童の部でも監督に限りグラウンドに出て、指示することができる。監督はマウンドへの行き帰りは、小走りでスピーディに行うこと。
- 10 投手の準備投球は、初回(救援を含む)に限り7球以内(1分を限度とする)、次回より3球以内とする。同一投手の再登板は5球以内とする。
- 11 あまりインターバルが長かったり、無用な牽制が度を過ぎるとペナルティを課すことがある(審判員の判断による)。
- 12 監督及び捕手を含む内野手が1試合に投手の所に行ける回数は、6インニングスの試合では3回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦)となった場合は2インニングスに1回とする。攻撃側タイムの回数も同様とする。(6インニングスの試合で3回以内、延長戦で2インニングスに1回)選手を呼び戻しての指示もタイムと同様とする。
- 13 選手の手袋は認めるが、リストバンドは認めない。
- 14 投手については、手袋・サポーターなどの使用を禁止する。なお、負傷等で包帯・テーピング等必要な場合は、試合前に審判員に確認すること。
- 15 次の打者はウェーティングサークル内で低い姿勢にて待つ。素振りは危険の為禁止する。
- 16 危険防止の為、投手・捕手は3年生以上とする。
- 17 準備投球を受けることが出来る選手がいけない場合、正規の捕手の準備が出来るまで待つ。
- 18 応援者は、応援席から選手に指示・指導は禁止する。
試合中の指導はベンチ入りした背番号を着けている監督及び指導者最大4名に限る。
背番号を着けていないスコアラーは、指導することができない。救護員も同様に指導することはできない
指導者が自チーム選手に対して指示をする際は相手チーム選手に影響を与える大きな声は避けること。
試合中の応援の仕方については、鳴り物はペットボトルを含めグラウンドに関係なく全面禁止とする。
- 19 ダブル登録について
4年生以下を高学年、低学年両方に選手登録できることをダブル登録という。
高学年の選手登録が12人以内の場合はダブル登録をすることができる。登録可能人数については、高学年登録可能人数の最大20名となるまでとする。
ダブル登録された4年生以下が試合開始より高学年の試合に出場する場合は試合開始前までに
出場の理由(体調が悪い等)を本部に申請し許可を得ることとする。
試合中、怪我等により4年生以下の出場が必要となった場合の対応は連盟運営員と審判部の判断に委ねることとする。許可なく違反が発覚した場合は没収試合とし、違反対戦相手の不戦勝(7-0)とする。
- 20 熱中症対策について
熱中症特別警戒アラートが発令された場合は試合を延期とする。
熱中症警戒アラートの発令及びWBGT指数が31を超えた場合は注意深く状況を確認しながら運営する。

審判員の申し合わせ事項

- 1 ランナーは、走塁中ベンチに戻るまで自チーム選手とハイタッチは行わないように指導する。
- 2 バット引きの選手はプレーが一段落するまでグラウンドに入れないこと。
- 3 試合前に用具の点検を実施する。
- 4 監督が投手に指示を与える際、マウンドまで小走りで行くようにすること。
- 5 投手の牽制球が悪送球等により送球がボールデッドラインを超えた場合は、投手がプレートに触れているいないに関わらずテイクワンベースとする。(遅延行為の防止)
- 6 ボールデッドライン付近の飛球を捕球した場合について
 - 野手の捕球位置が片足でもボールデッドラインを超えてしまった場合は、捕球とみなされずファールボールとする。
 - ラインの内側で捕球後、勢いでボールデッドラインを超えてしまった場合は、インプレーとする。連盟内規を適用(公認野球規則7.04c相違)。但し、飛球をラインの内側で捕球後ラインを超えて倒れ込み送球動作が不可能になった場合は、走者の位置を基準として各走者に1個の塁が与えられる。
- 7 試合中に雷が発生した場合の処置について
 - 連盟役員・審判員は、直ちに試合を中止し全員を非難させる。なお、遠くに雷が発生した場合でも、状況を判断して危険の無い場所に避難させること。また、本連盟は木製バットでの試合継続は禁止する。

審判部からの注意

- 1 試合運営は、スピーディーに行い無駄な時間を省く事。
- 2 攻守交替は駆け足で行い、試合中のボールまわしは禁止する。
- 3 守備側からのタイム要求時の間、守備側投手の練習は認められない。
- 4 タイムは要求したときではなく、審判が認めたときとする。
- 5 相手チームおよび審判への野次は禁止する。(父兄も対象とする)
注意 本大会参加者はマナーに留意し、野球選手として立派な態度をとる。
- 6 ルールの解釈決定は、担当審判が行うが事態が紛糾した場合は、審判及び控審協議し最終決定を担当主審が行う事とする。
- 7 審判服で待機中あるいは担当審判を終えた審判員が自チームベンチに入る場合はグラウンドコートを着用または審判服上着を脱ぐ。
- 8 ボークは最初から宣告する。
ボークは審判員がボークと認め宣告した場合。
相手チームのベンチ、応援席からのボークの発言又ボークをさそう発言があった場合はボークを宣告しない。

以 上